

穴埋め（1 問 2 点合計 20 点）

答案用紙の空欄に書くこと。番号を間違えないように注意！

- [1] 原価を引き下げようとする技術革新によって、革新的企業は商品の市場価値と企業内価値との差額を、通常の期待利潤を越える 利潤として獲得する。

超過

- [2] 資本主義社会において、企業内分業に対して、企業間で市場を通じて行う分業のことを 的分業と言う。

社会

企業間×

- [3] 産業構造が労働集約型から資本集約型に移るにつれて、資本構成は 化する。

高度

深

- [4] 労働力の価値（≒基本給）自体が高くなるのは 労働の特徴である。

複雑

- [5] 科学的知識の意識的・計画的適用は、なによりもまず、熟練を解体して 設備で置き換えるのに役立つ。

機械

- [6] 商業資本（卸・小売など）を通さずに、産業資本が最終消費者に直接的に販売することを と言う。

直販

直接販売（1）

直売（1）

- [7] 競争が成立する限り、社会全体で期待利潤率が均等化して、 的利潤率が形成される傾向にある。

一般

平均

均等×

- [8] 【計算問題】固定資本の存在を無視して、社会の全体を第一部門（生産手段生産部門）と第二部門（生活手段生産部門）とに分け、以下の仮定をおく。

- 資本構成はどちらの部門でも同じである。
- 剰余価値率はどちらの部門でも同じである。
- 単純再生産の均衡条件を満たしている。

もし第一部門の総生産物価値の中で不変資本部分（ c_1 ）が 25 兆円、可変資本部分（ v_1 ）が 5 兆円、剰余価値部分（ s_1 ）が 10 兆円であるならば、第二部門の総生産物価値の中で不変資本部分（ c_2 ）は 円である。

15 兆

- [9] 【計算問題】同じく上の 8 の仮定の下で資本構成は である。

5

0.2 または 1/5（1 点）

- [10] 【計算問題】割引利率が 2%だとする。1 年後の 円の割引現在価値は 100 万円である。

102 万

論述（1 問 10 点合計 30 点）

以下の問題の**すべて**に答えよ。答案用紙の余白に書くこと。どの問題に答えているのか、**必ず番号を書く**こと。

[A] 労働の個人的生産力（個人の生産力）から区別される限りでの社会的生産力（組織の生産力）とは何か、具体例を挙げて説明せよ。

質的に異なる（そもそも個人では不可能）

量的に異なる（1+1 が 3 にも 4 にもなる）

[B] 現代社会における企業向け設備投資資金の長期貸付の特徴を、前近代的共同体の貸付と対比しつつ、具体例を挙げて説明せよ。

周りの環境：生産を資本主義的営利企業が支配したということによって商品生産が完全に発展した。

信用に基づく

低利の貸付（期待利潤率以下）

[C] 伝統的金融政策との対比に置いて、非伝統的金融政策の特徴（それがどういうものであり、どういう条件の下で生まれたのか）を述べよ。

どういうもの？——量的緩和中心（大規模化・高リスク化）。

どういう条件？——金融不安の下でのゼロ金利